



上…田植えを体験する学生/下…鍬の使い方を学ぶ学生

3

NEWS

里山の農作業を学ぶ
第69回東京農業大学景観保全活動

里山の景観を保全・創造し、自然環境を生かした地域づくりを目的とした東京農業大学の「第六十九回里山景観保全活動」は五月二十八日、二十九日の二日間、村内で行われました。

今回の活動には、学生二十六人が参加。初日は、落合地区と馬場地区の二つのグループに分かれて活動が行われました。落合地区は本郷公市さんの指導で、田植えを体験、馬場地区では、鈴木寛重さんの指導で鍬の使い方を学びながら、こんにゃくの植え付けに汗を流しました。

二日目は富田地区で田植えを実施。あいにくの雨模様の中、参加者全員で苗を丁寧に植えていました。参加者は、体験を通して田んぼと生き物の関係や里山の景観整備について学んでいました。

1

NEWS

被災地に元気を
中沢めん羊の里づくり組合が被災地で復興ボランティア

中沢めん羊の里づくり組合（岡谷次男組合長）は五月三日、南相馬市原町地区の石神第一小学校の避難所で地元産の生ラム肉などを避難者に振る舞いました。

震災や津波、原発事故と多くの災害に見舞われた被災者に、

生ラム肉を食べて元気になってもらうと同組合員十人が訪れました。百人分の生ラム肉や特製豚モツ、おふかしを用意。被災者に声をかけながら手渡ししました。また、「南相馬市は負けない！」と掲げた横断幕も贈り、復興へ向け激励しました。



避難所を訪れ元気づける組合員ら

2

NEWS

今年は209人が豆づくりに参加
大豆・じゅうねん・あずき種子配付

栽培面積に応じて大豆などの種子が配られました

農業の振興と高齢者の生きがい・健康づくりなどを目的に村が進める「まめで達者な村づくり」事業も七年目を迎え、今年栽培する大豆・じゅうねんの種子配付が五月二十六日、各地区の集落センターなどで行われました。

今年は、大豆の栽培に百四十一人（二十二・六四〇）、じゅうねんの栽培に五十六人（四・五七〇）、あずきの栽培に十二人（〇・四〇〇）の合わせて二百九人（二十七・九一〇）の年寄などが豆づくりを行います。

4

NEWS

伊藤巡查部長が着任
棚倉警察署鮫川駐在所

「駐在所の伊藤です。よろしくお願いします。」

五月十八日付で、棚倉警察署鮫川駐在所に伊藤兼輔巡查部長が着任しました。

伊藤巡查部長は、福島市出身の二十九歳で、いわき南警察署から転任されました。

「昔ながらの警察官を目指して、村内一軒一軒の声を聞いて、地域に密着した仕事をしたいと思っていますので、ご協力をお願いします。」と抱負を語っていました。

5

NEWS

むし歯のない子は3人
2月22日実施の3歳児健診

二月二十二日に村保健センターで実施した三歳児健診で、むし

歯がなかったお子さんは、受診児六人中三人でした（写真）。



あおい 舟木 蒼くん

①赤坂西野岡田／②父・一夫さん、母・恵美さん／③「上手にみがけた？」と自分で歯みがきをがんばっています。



じゅあ 鈴木 珠凜愛ちゃん

①渡瀬字青生野／②父・淳一さん、母・愛深さん／③毎日、仕上げ歯みがきを頑張ったことと、定期的にフッ素コーティングしました。



そうご 芳賀 想護くん

①渡瀬字西野沢／②父・義裕さん、母・ひとみさん／③ご飯をたくさん食べ、おやつをあまり口にしませんでした。仕上げみがきも毎回させてくれました。

①住所
②保護者
③むし歯にならないためにがんばったこと